



俳句ゆめクラブ会報

2022年1月25日

第 140 号

湖真青白鳥百羽ちりばめて (4票) 梅田ひろし
 寒晴や空に背伸びの送電塔 (3票) 長澤輝子
 成人の日彼等未来に平和あれ (3票) 小林健一郎

一昨年をコロナ元年とすれば今年はコロナ三年とい

《入選》

〔決定事項・連絡事項〕

うことになる、昨年後半まで減っていた感染者がオミ

金柑のまづ一口に口に口すぼめ

瀬戸川公子

・次回句会 2月22日(火) 13時より

クロン株出現で激増し第6波、マスクが必然というか

大枯木天上を掃く箒かも

岡田時雄

県活203号セミナー室

自然になってしまった。もしかしたらこのコロナ禍は

寒雀窓辺に媪一人かな

浅見法子

兼題「節分、豆撒き」

驕れる人間共への神の罰かも、なんて考えてしまう。

初場所や大関取りの夢叶ふ

岡田時雄

他に自由題で二句、合計三句提出のこと。

今日の句会は3名の欠席で総勢9名であった、参加

初参り社あちこち袋絵馬

八千代幸男

者が少ないと心寂しいものである。兼題は「初雀」。

水仙や墨すり擦れ筆の先

瀬戸川公子

・本日は9名出席(欠席:大井、鈴木、吉澤)

〔句会〕県活203号室 13時~14時40分

老二人傘寿の年を迎へけり

宮島昭夫

久々に友と会ひたる初句会

庭木より出窓を見つめ初雀

岩松忠子

リモートを談合せしか初雀

宿の窓我へとチュンと初雀

八千代幸男

冬うらら幼き頃のドロップス

初雀朝日を浴びて集ひけり

瀬戸川公子

土曜の夜人通り絶え雪深深

探梅の一輪ほどを見つけたる

宮島昭夫

春待つやコロナ禍密を凌ぎつつ

丸まるとコート着ること初雀

小林健一郎

岩松忠子

浅見法子

岩松忠子

八千代幸男

長澤輝子

長澤輝子

長澤輝子

宮島昭夫

宮島昭夫

小林健一郎

浅見法子

浅見法子

岡田時雄

長澤輝子

長澤輝子

小林健一郎

宮島昭夫

宮島昭夫

長澤輝子

浅見法子

浅見法子

浅見法子

寒雀媪一人の窓辺かな

宮島昭夫

再建の赤き鳥居や淑気満つ

つくばひに滴る水や初雀

岡田時雄

寒晴や空へ背伸びの送電塔

成人の日彼等未来に平和あれ

小林健一郎

小林健一郎

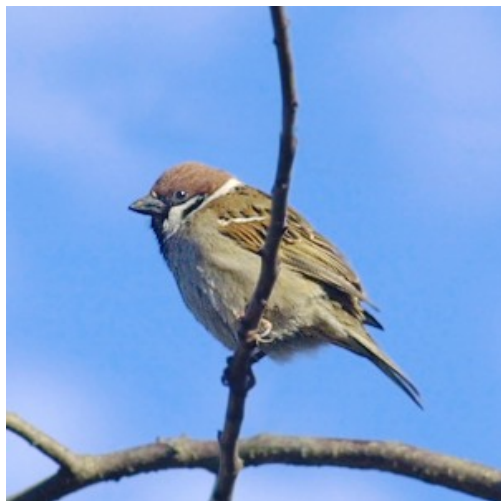
小林健一郎

小林健一郎

小林健一郎

小林健一郎

小林健一郎



(小林健一郎記)